

 Agilent Technologies General Specifications

Agilent G6538/6540 シリーズ Q-TOF LC/MS システム据付前要領書



目次

1. はじめに	3
2. 設置について	3
2-1 設置環境	3
2-2 発熱量	3
2-3 設置スペース・設置台	4
2-4 設置スペースの注意点	4
2-5 寸法および質量	6
2-6 システムの設置例（標準システム）	7
システムの設置例（冷却ALSシステムを含んだ2段積システム）	8
3. ガス関係	
3-1 窒素ガス仕様	9
3-2 窒素ガス設備準備置フロー	10
3-3 窒素ガス発生機器	10
3-3-1 設置場所及び環境	10
3-3-2 窒素ガスジェネレータ仕様	11
3-3-3 寸法及び質量	11
3-3-4 設置スペース	12
3-4 既存の窒素ジェネレータ	12
3-4-1 配管	13
3-4-2 減圧弁（レギュレータ）	14
3-4-3 配管例	14
3-4-4 集中配管	15
3-5 その他のガス（Optional）	15
4. 排気、排水、廃液	16
4-1 LC/MS Q-TOF排気	16
4-2 コンプレッサ排気（SIC社窒素ガス発生機器使用時）	17
5. 電源について	18
5-1 電源について	18
5-2 機器の必要電源について	18
5-3 機器接続について	19
5-4 質量分析機器（Q-TOF）コンセント、電源仕様	19
5-5 HPLC、ワークステーションコンセント、電源仕様	20
6. 試薬、器具について	22
6-1 試薬	22
6-2 純水	22
7. CE-MSの設置時の注意点	22
7-1 CE G7100Aとの組み合わせ	22
付録 事前準備チェックリスト	23

1. はじめに

お客様に納入する Agilent G6538/6540 シリーズ Q-TOF LC/MS システムおよび周辺機器の据付作業を円滑に行うことができるように、お客様に事前に準備していただく事項（お客様準備の電源及び排気ダクト工事や必要な薬品等）についてご説明します。また、これらの事前準備は機器が納入される前日までに完了するようにお願いします。

これらのユーティリティ確認事項は、弊社、および弊社の指定している代理店担当が「事前準備チェックリスト」（23～ページ）に従い確認をさせていただきます。すべての事前準備が確認された時点で、据付日程等のご連絡をさせていただきます。

2. 設置について

2-1. 設置環境

以下の様な設置環境の条件を満たす環境をご準備願います。

- ①年間を通じて室温が15～32℃の間であること
温度変化が3℃/hr 以内で室温が安定していること
- ②湿度40～80%（ただし、結露しないこと）
- ③直射日光、空調施設の風が直接機器に当たらない場所
- ④腐食性雰囲気、ほこりの多い場所を避ける
- ⑤振動のないところ
- ⑥十分な発熱量の排気ができる施設があること

注意

直射日光、エアコンの風が直接検出器に当たると、UV検出器やMSに悪影響（ベースラインの変動やノイズの増大）を与える場合がありますご注意ください。

注意

密閉された部屋でのドアの開閉やエアコンの動作などによる室温の変動は、検出器に悪影響（ベースラインの変動やノイズの増大）を与える場合がありますご注意ください。

2-2. 発熱量について

下表 2-1 にそれぞれのQ-TOFの発熱量を記載します。
発熱量を許容できるだけの排気及びエアークンディショニングできる設備をご準備下さい。

表 2-1 各機器の発熱量

機器番号	機器名称	発熱量
G6538A	UHD Accurate-Mass Q-TOF	※1318Watts(4500BTU/hour)
G6540A	UHD Accurate-Mass Q-TOF	※2429Watts(9640BTU/hour)
AT-30NP-CSH	窒素ガスジェネレータ	3023Watts(10318BTU/hour)
AT-10NP-CS	窒素ガスジェネレータ	698Watts(2373 BTU/hour)

※上記のMSの発熱量はロータリーポンプを含みます。イオン源から約 2047 BTU/hr が放散されます。

LCの各モジュールについてはAgilent 1200 シリーズ液体クロマトグラフ 据付前要領書をご参照ください。

2-3. 設置スペース・設置台

お客様のシステム構成に合わせた設置スペース・設置台をご準備願います。

標準的なシステムの参考配置・スペース図は、図2-2, 図2-3をご参照下さい。

Q-TOF LC/MS システムはかなりの重量になり、設置台に十分な耐荷重が必要となります。

各機器の仕様（寸法、質量等）をご参照上、十分な耐荷重の設置台をご準備ください。

注 意

質量分析機器本体の前後および左右には30cm以上の保守スペースを空けるようお願いいたします。また、冷却機能付きオートサンプラの左右には空気の循環のために25cm以上のスペースが必要となります。

2-4. 設置スペースの注意点

1. Q-TOF LC/MS システムには真空ポンプの接続が必要になります。真空ポンプの接続と設置の位置は図 2-1 A) 及び図 2-1 B) の2パターンがありますが、配管の長さ(200cm)を考慮すると、図 2-1 B) をお勧めします。

図 2-1 A) はQ-TOF本体の右脇に置く配置図になります。

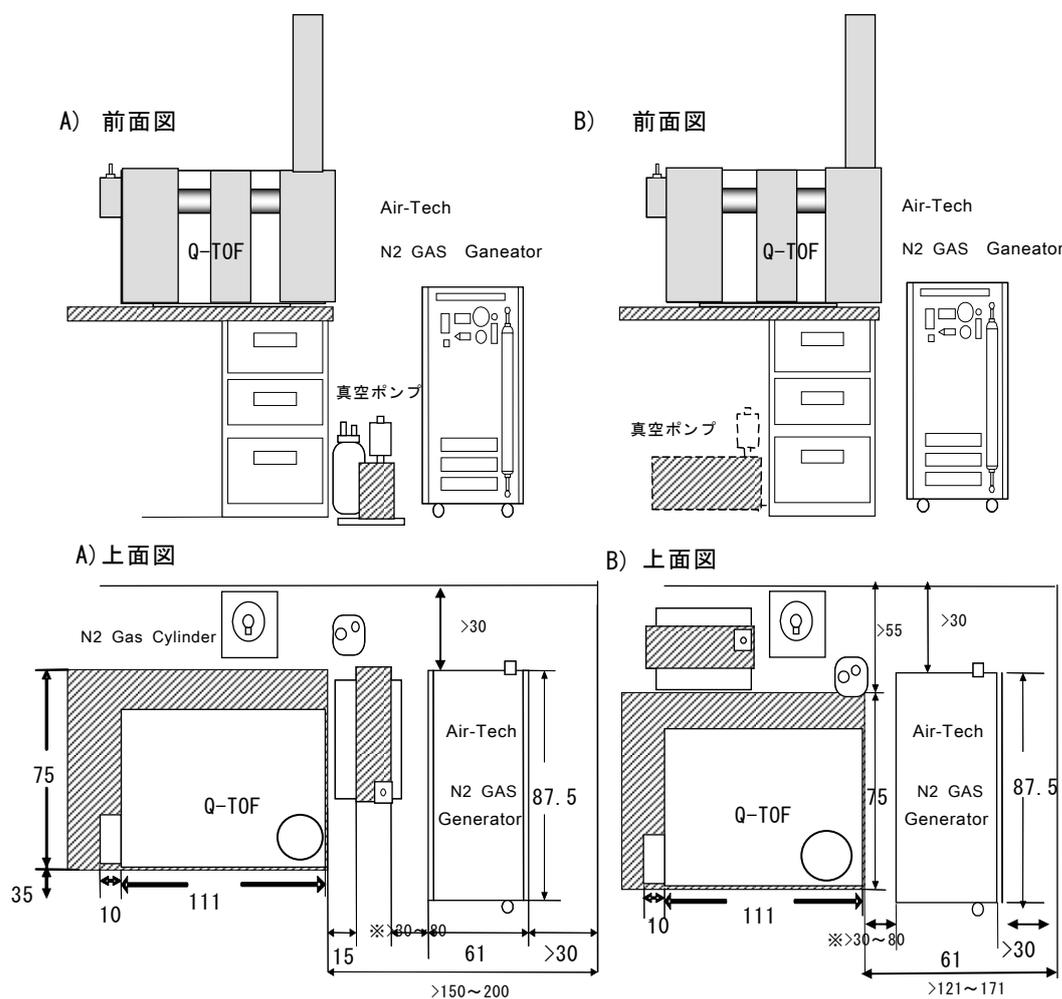
追加で、延長用バキュームホースが必要になります。

図 2-1 B) は設置台の背面に置く配置図になります。(推奨)

設置はどちらのパターンを使用する場合も背面に**45cm**以上のスペースを確保するようお願いいたします。また右脇にスペースを確保する場合には、**幅：60cm x 奥行：75cm**以上のスペースを確保するようお願いいたします。

2. 真空ポンプは連続動作をします。動作時にはかなりの熱を発生しますので可燃物等を近くに配置しないで下さい。また、騒音が気になる場合も囲わないで下さい。十分な放熱するスペースが確保できない場合、故障の原因になります。
3. 窒素ジェネレータのエアの取出し口及び排気口はジェネレータ前後になる為、図2-1に示すスペースが最低限必要になります。

図2-1 A) 真空ポンプ設置例(Q-TOF右脇) 図 2-1 B) 真空ポンプ設置例(机の後部)
 ※追加ホースが必要です。



※ご使用になる窒素ジェネレータにより、左側面の必要スペースが異なります。
 AT-10NP-CS-Tの場合、左側面と右側面のスペースは30cm以上
 AT-30NP-CSHの場合、左側面は吸気スペースとして80cm以上右側面は30cm以上
 となります。

2-5. 寸法および質量

(1) 分析機器 (Q-TOF質量分析機器本体)

表-2.2 各機器の寸法および質量一覧：分析機器

機器	型名	高さ [cm]	幅 [cm]	奥行 [cm]	質量 [kg]
Q-TOF本体	G6538A	186.7	121.9	66.4	173
	G6540A	186.7	121.9	66.4	176
真空ポンプ	E2M28	56.6	17	58.3	40.0
デュアルスプレーESIソース	G3251B	17	18	9.5	1.7
APCI ソース	G1947B	23	18	13	1.8
Multimode ソース	G1978B	23	18	13	2.29
Chip Cube	G4240A	35.9	34.9	29.8	14

(2) 分析機器 (高速液体クロマトグラフ)

各機器の寸法および質量一覧は **Agilent 1200 シリーズ液体クロマトグラフ 据付前要領書** をご参照ください。

(3) ワークステーション本体

表-2.4 各機器の寸法および質量一覧：ワークステーション本体*

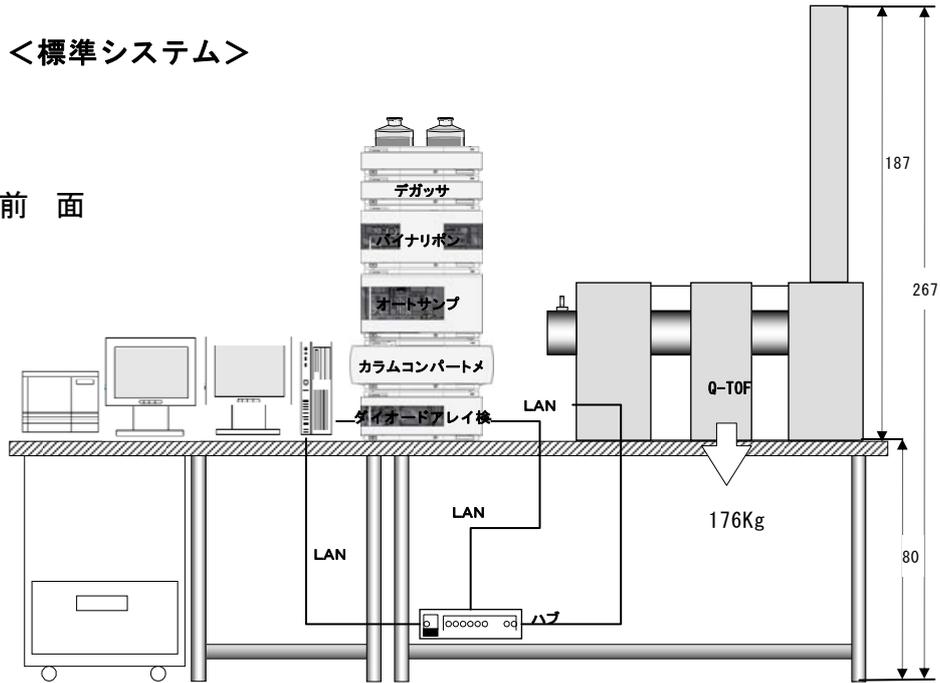
機器	型名	幅 [cm]	奥行 [cm]	高さ [cm]	質量 [kg]	
コンピュータ	本体	dc7900	16.8	45.6	45.0	15.1
	キーボード	Business Desktop	47.5	18.5	5.0	—
ディスプレイ	22"	FL472AA	51.5	30.1	501	7.7
プリンタ		HP Laserjet P3005d	42.5	40.8	34.3	16.2

※：ワークステーション本体の構成機器は、変更されることがあります。

※：ディスプレイを2台使用する場合があります。

＜標準システム＞

前面



上面

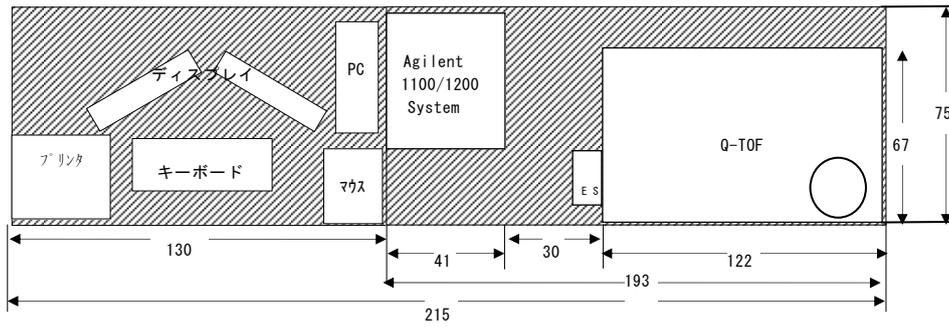


図 2-2 標準システムの位置例

＜冷却ALSを含んだ2段積のシステム＞

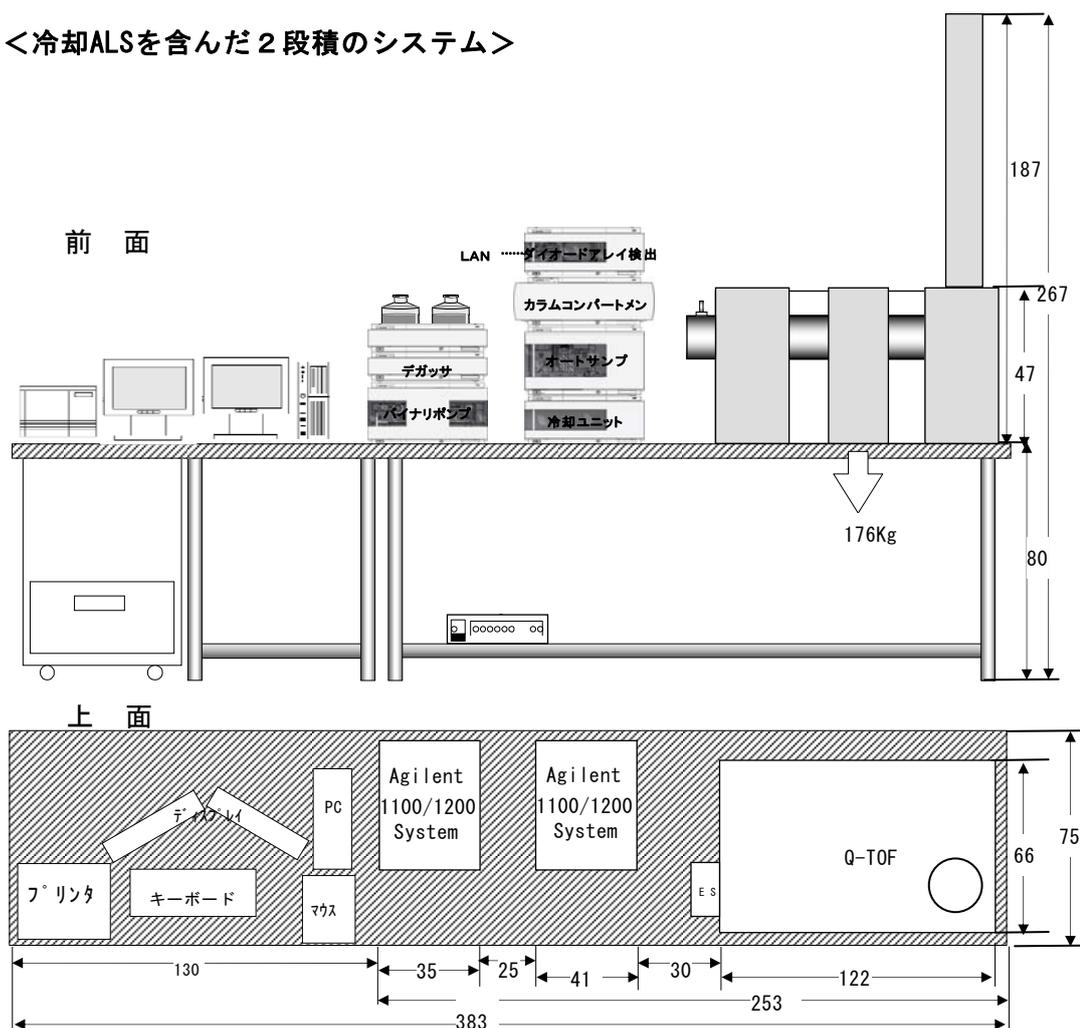


図 2-3 冷却ALSを含んだ2段積のシステム設置例

＜注意点＞

- ① 冷却ALSを含んだシステムは必ず上図の様に2段積にします。
- ② 標準のALS場合に2段で積む場合には、別途キャピラリー（G1329-87300）ポンプオートサンプラが必要になります。
- ③ 冷却ALSの場合、左右を吸気及び排気の為に空間を空ける必要があります。
可能な限り左右に **25cm以上**の空間を空けて下さい。また、空けた空間に妨げなるような遮蔽物を置かないで下さい。
- ④ 梅雨の時期等湿度が **80%以上** 場合には冷却ユニットから結露水が出ます。ドレインのチューブが閉塞してしまうと冷却効率の低下や冷却ユニットの内部が露結し故障の原因 になる場合があります。
- ⑤ 上図の寸法以下の場合は設置できません。

3. ガス関係

LC/MS Q-TOFシステムでは窒素ガスが必要です。下記仕様を満たした窒素ガスをご準備下さい。

3-1. 窒素ガス仕様

表 3-1 にLC/MS Q-TOFシステムの窒素ガス仕様を示します。

表 3-1 窒素ガスの仕様

項目	仕様
純度	コリジョンガス用*1 99.9999% (酸素バランス) 以上 (液体窒素ポンベ使用) ドライガス用 98.0% (酸素バランス) 以上 (窒素ガス発生機器使用) ただし、炭化水素の汚染のないこと (0.1ppm未満)
使用圧力	コリジョンガス用 0.10~0.21 MPa (10~30 psi) ドライガス用 0.55~0.69 MPa *2 (80~100 psi)
流量	コリジョンガス用 1 mL/min以上 ドライガス用 18 L/min以上*3
接続形状	吐出口： コリジョンガス用Swagelok 1/8 インチにて Q-TOFと接続 ドライガス用 Swagelok 1/4 インチにて Q-TOFと接続 (接続配管は 5 m それ以上離れる場合には別途配管が必要)

*1 コリジョンガス用の窒素ガスならびにレギュレータはお客様準備になります。

*2 機器-ジェネレータ または 液体窒素出口が 5 m以内の場合には、0.65 MPa (90 psi) に設定します。0.65 MPa (90 psi) 以下になった場合、最大流量にてコントロールできなくなる場合があります。

*3 機器使用しない状態(スタンバイ状態)においても最低流量 (3~4 L/min) が流れます。

3-2. ドライガス用窒素ガス設備準備フロー

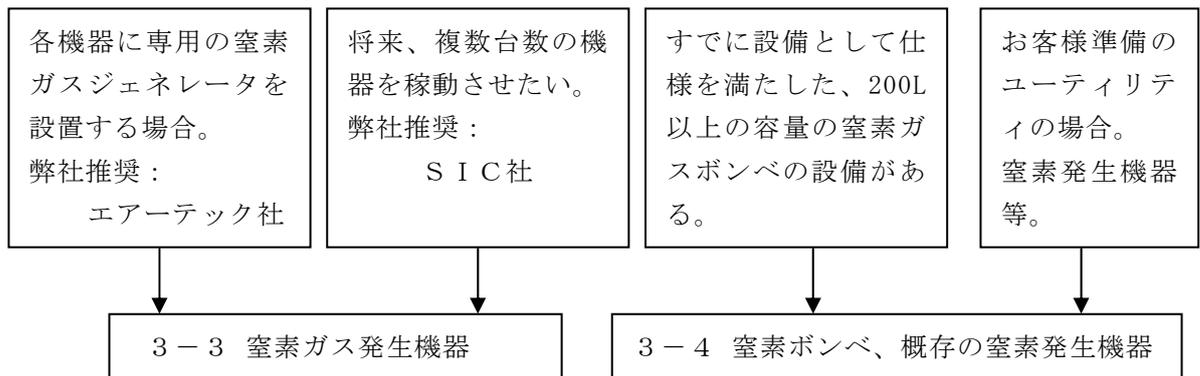


図-3-1 ドライガス用窒素ガス設備準備フロー

——注意——

複数台の機器を稼働する場合、複数台コントロールができる窒素ガス発生機器を推奨します。しかし、窒素ガス発生機器が故障した場合にはすべての機器が停止しますので、稼働率が高く常に稼働する事が必要な場合にはバックアップシステムを別途付加するか、それぞれ個別に窒素ガス発生機器を設置する事をお勧めします。

3-3. 窒素ガス発生機器

窒素ガス発生装置の据付は各メーカーが行います。

3-3-1. 設置場所及び環境

1) 湿気の少ない屋内

- ・ 直接水が掛かると各部の動作不良や電気事故を起こす危険があります。
- ・ 梅雨時など高湿度（80%以上）の時は、ドレインの発生量が多く錆びやすくなります。

2) 風通しの良い所

- ・ 周囲温度が**40℃**を超えるとピストンリング、ライダーリングの摩耗が早くなり、軸受けのグリースが流出しやすくなります。
- ・ 壁面に密着しないようスペースを確保して下さい。

表 3-4 窒素ガスジェネレータの設置スペース

設置スペース	AT-30NP-CS	AT-10NP-CS-T
正面	1m 以上	50cm 以上
右側面	30cm 以上	30cm 以上
左側面	80cm 以上	30cm 以上
後方	30cm 以上	30cm 以上
上面	1m 以上	50cm 以上

3) 砂、陶磁粉などの塵埃の少ない場所

- ・ 塵埃のため吸い込みろ過器の目詰まりを起こします。
- ・ 弁部、シリンダー、リング、軸受部を傷つけ、摩耗が早まり、破壊、焼き付け事故を起こしたり、性能が落ちます。

4) 爆発性、引火性ガス（アセチレン、プロパンガスなど）や腐食性ガス（塩素ガス、亜硫酸ガス）の使用している場所には設置しないで下さい。

5) できるだけ平坦で点検の容易にできるところに設置して下さい。

凸凹面に設置すると震動による衝撃から各摺動面、転倒面の摩耗が早まります。

3-3-2 窒素ジェネレータ仕様

表 3-2 窒素ジェネレータの仕様

項目		AT-30NP-CSH	AT-10NP-CS
窒素ガス仕様	純度	99.90%	99%
	炭化水素濃度	0.1ppm 以下※	0.1ppm 以下※
	吐出圧力	0.8Mpa	0.8Mpa
	流量	30L/min	18L/min
電源仕様	電源	三相 200Vac	単相 100Vac
	定格電流 50/60Hz	12.2A/11 A	13.4A/13.4A
	定格出力	2.2Kw	0.75Kw
	絶縁抵抗	1500V (1分以上)	500V 1MΩ

※設置環境により異なる場合があります。

3-3-3. 寸法、及び質量

表 3-3 窒素ジェネレータの寸法、質量

商品名	型名	高さ[cm]	幅[cm]	奥行[cm]	質量[kg]
AJS用窒素ガスジェネレータ	AT-30NP-CSH	110.5	61.0	87.5	220
窒素ガスジェネレータ	AT-10NP-CS	86.0	48.0	87.0	80

3-3-4. 設置スペース

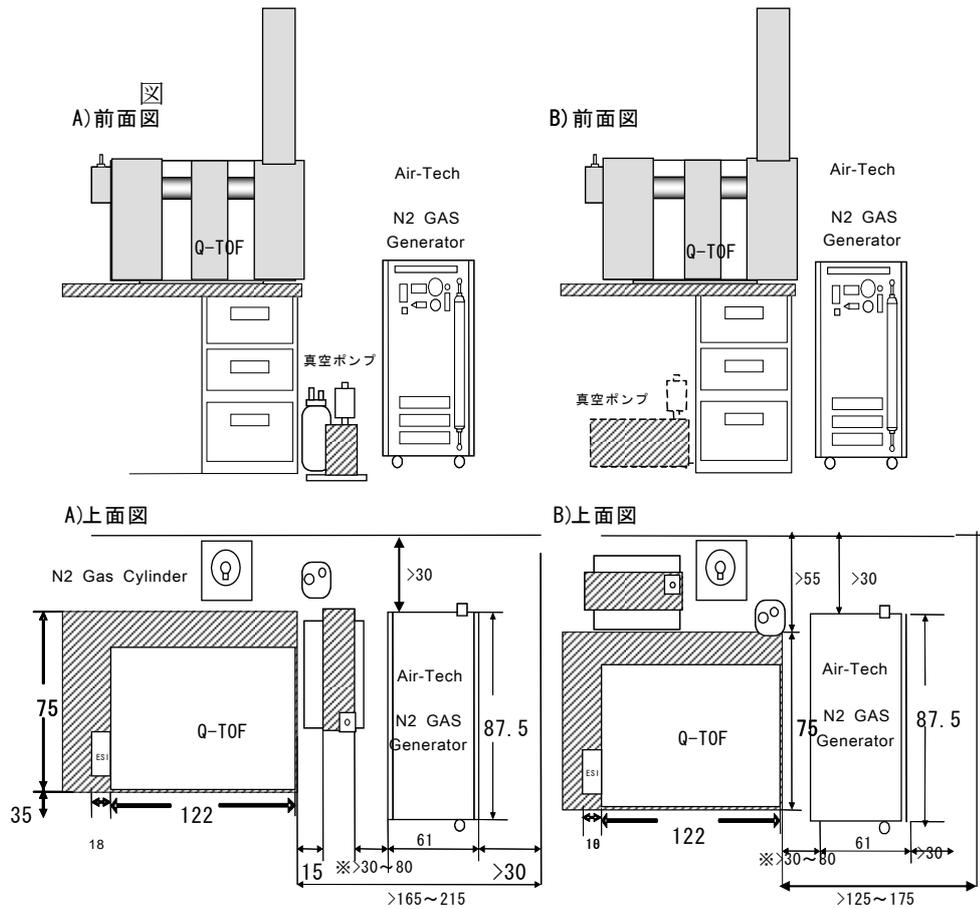


図-3-1 窒素ガスジェネレータ設置例

< 注意点 >

- ① 窒素ジェネレータの吸気口、排気口のスペースを確保して下さい。
- ② メンテナンスを行う為に前の引き出せる様にジェネレータの前面にスペースを確保して下さい。
- ② 質量は220Kgありますので、設置する床は十分に耐荷重がある所に設置して下さい。

3-4. 概存の窒素ジェネレータ

設置済みのユーティリティをご使用になる場合には、下記の項目に機器との接続は使用範囲内に圧力をコントロールできるON/OFFバルブ付き圧力調整器と1/4インチのテフロンチューブを接続できる取り出し口（図-3-3：13°-ジ）をご準備願います。なお、ON/OFFバルブ部の取り出し口と質量選択検出器までの距離は5m以内になるようにしてください。配管、バルブ取り付け工事に際しては、内部に油類などの汚れのないものをご使用願います。

3-4-1 配管の接続形状

施工をお願いする配管の取り出し口は、ON/OFFバルブの形状をスウェジロックの1/4インチでご指定下さい、または検出器までの距離が5m以内になる場合にはテフロンまたはSUSの1/4インチのチューブを準備してください。（できるだけA）をご用意ください。）

- A) PT1/4" メネジを使用してスウェジロックが1/4インチ（図-3-2参照）
- B) 外径1/4"（または6mm）テフロンチューブ出し（4~5m必要、図-3-2参照）
- C) 外径1/4"（または6mm）SUSまたはCuパイプ渡し（5~7cm必要、図-3-2参照）

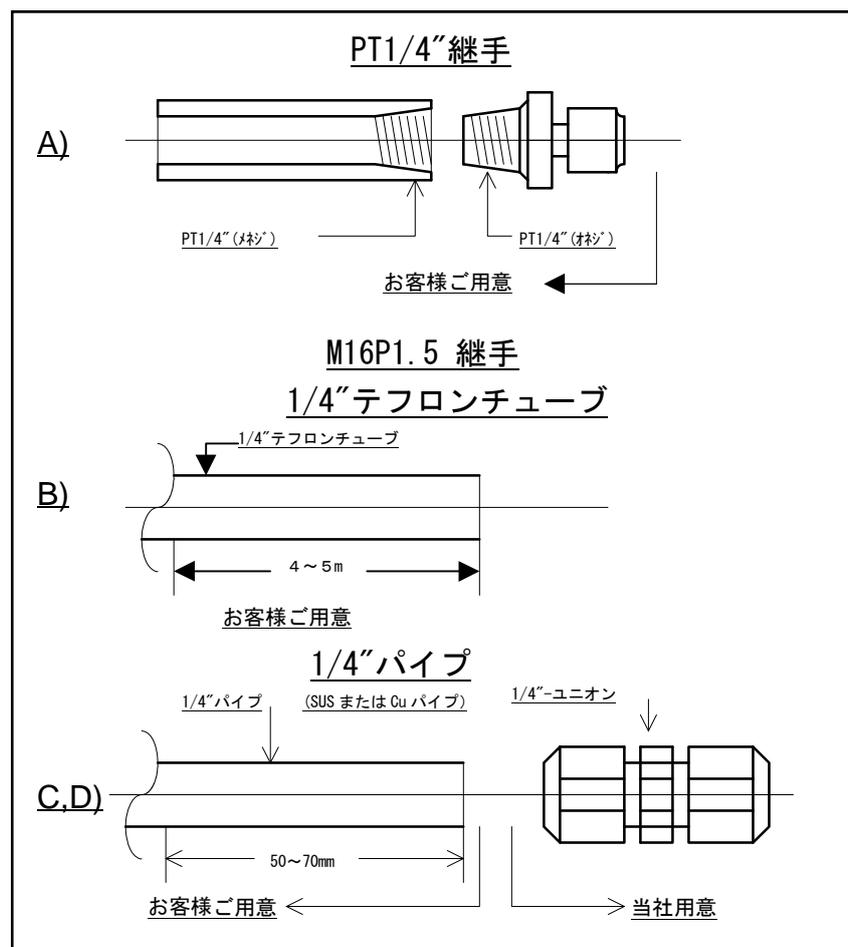


図-3-2 継ぎ手規格

3-4-2 減圧弁（レギュレータ）

半導体製造用の物が最適です。減圧弁は禁油、ダイアフラムはSUS製のものをご使用ください。1つの供給元から複数台のMSDへ配管する場合は、必ず1台ずつが単独になるようにON/OFFバルブを取り付けてください。

3-4-3 配管例

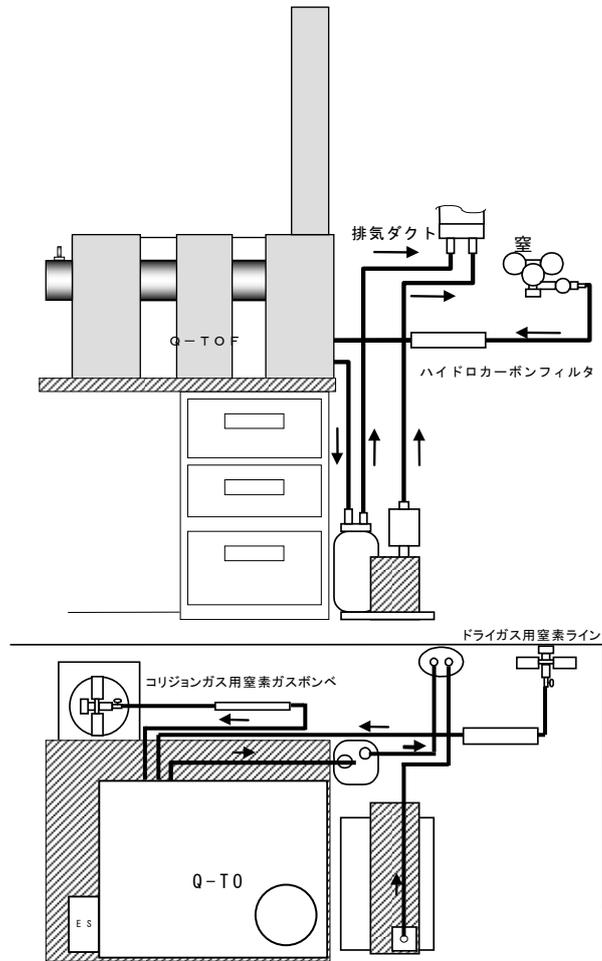


図-3-3 窒素ガス配管例

3-4-4 集中配管（液体窒素の供給）

集中配管にて窒素ガスを供給する場合には以下の事を確認して下さい。

① 供給の圧力が 0.55~0.69 MPa (80~100 psi)以上の圧力で供給されている (5.6~7.0 kgf/cm²)。

③ 集中配管の内部が洗浄された状態であるかをご確認下さい。もしも長期間使用されていないラインを新規使用する場合は、十分配管内パージをお勧めいたします。ガス取り出し口までリークが無い事を確認して下さい。リークは配管系をすべて閉じた状態でポンベの元バルブを開き 0.65MPa の圧力をかけた後、ポンベの元バルブを閉じて 1 2 時間後に系内の圧力低下が無い事により確認できます。

3-5 他のガス

窒素ガス以外のコリジョンガスを使用する場合は以下の物をご準備ください。

ただし、窒素ガスは必ず必要となります。

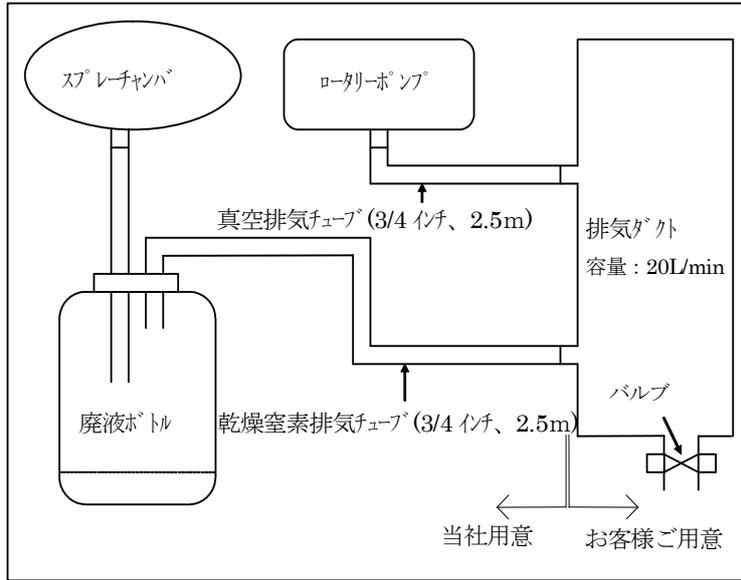
表3-4 その他のガス (Optional)

ガス	純度	使用圧力及び流量
アルゴン (コリジョンセル)	99.999%	0.7~2.0bar (10~30psi) 1~2 ml/min
エアー Chip Cube	99.99%	5.5~6.8bar (80~100psi) 4l/min<

4. 排気、排水、廃液について

4-1 LC/MS Q-TOF排気

質量測定機器の真空ポンプとスプレーチャンバからの排気ガスを強制排気するためのダクトが必要となります。排気チューブは**外径3/4インチ（内径1/2インチ）**になります。このチューブが接続できるダクトをご用意願います。真空ポンプからの排気によりスプレーチャンバ内が汚染されることのないよう、必ず別系統で排気を行ってください。必要排気容量は**0L/min以上**です。排気容量が大きい場合には排気流量のコントロールができる様にしてください。排気ダクトへの配管の概略図を図-4-1に示します。排気チューブの長さは乾燥室素排気、真空排気両方で**5m**になります。機器の配置にて排気ダクトの距離が**2.5m以上**離れる場合には別途ご相談下さい。



スプレーチャンバ内が汚染されることのないよう、必ず別系統で排気を行ってください。必要排気容量は**0L/min以上**です。排気容量が大きい場合には排気流量のコントロールができる様にしてください。排気ダクトへの配管の概略図を図-4-1に示します。排気チューブの長さは乾燥室素排気、真空排気両方で**5m**になります。機器の配置にて排気ダクトの距離が**2.5m以上**離れる場合には別途ご相談下さい。

図 4-1 排気ダクトへの配管の概略図

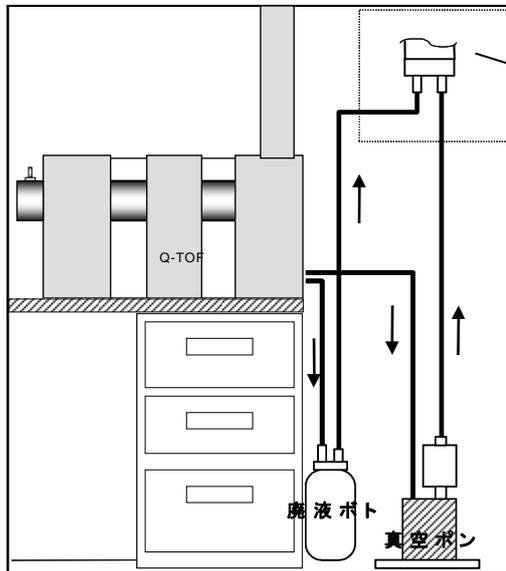


図 4-2 排気ダクトへの配管

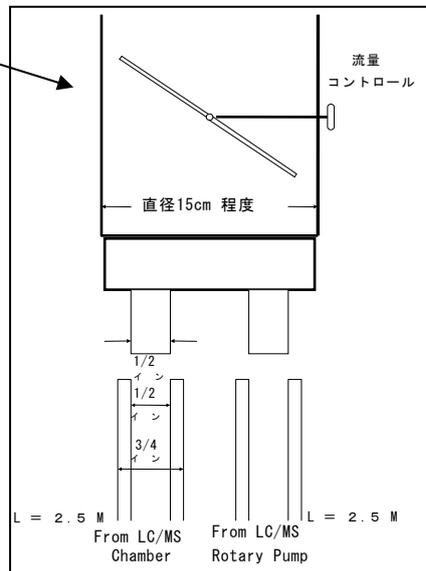


図 4-3 排気ダクト接続状態

注意

試料によって人体に有毒なガスが排出されることがあります。排気は排気ダクトを通じて必ず強制排気するようにしてください。

4-2 コンプレッサ排気、排水（S I C社製 窒素ガス発生機器使用時）

コンプレッサからは温度の上昇した空気が排出されます。室内温度の上昇をさけるため、必ず空調の十分に整った室内に設置してください。

コンプレッサを密閉された室内でご使用される場合には、新しい空気を取り入れる吸気口と温度の上昇した空気を吐き出す排気口を設けてください。なお、排気口側には換気用ファンを取り付けてください。概略図を図-4-4に示します。

また、コンプレッサはエアを圧縮するために多少の水（5～8L/Day）が発生します。その為、排水構または廃液ボトル（20L灯油ボトル）をご用意ください。

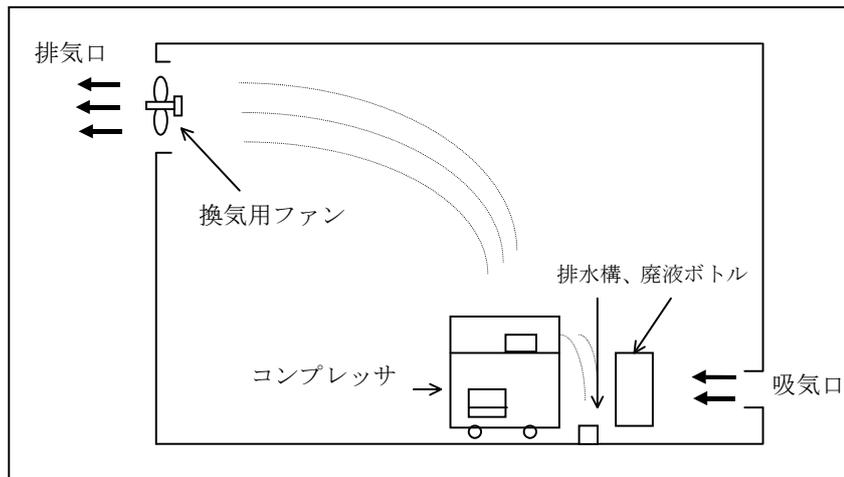


図-4-4 換気用ファンの概略図

注意

室内温度が40℃以上になるとコンプレッサが停止しますのでご注意願います。

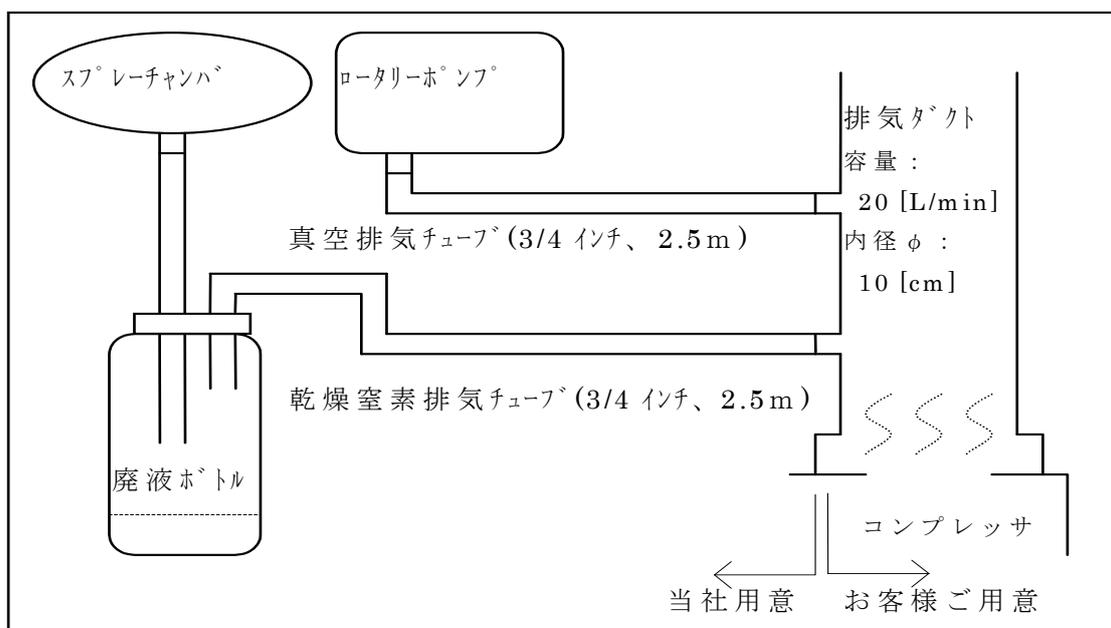


図-4-5 排気ダクトへの配管の概略図

5. 電源

5-1 電源について

電源電圧値がシステムの許容範囲内に入っていることをご確認ください。可能であれば1日の電源変動およびノイズをモニターし、電源に問題のないことを確認願います。

以下の項目（表 5-1）を満たさない場合にはシステムが正常に動作しません。ノイズカットフィルター、安定化電源等をご用意ください。電源仕様は以下の通りです。

表 5-1 電源仕様（ノイズ、安定性）

項目	許容範囲	注意
電圧変動、サージ電流	単相電源 AC 100Vの場合： 平均電圧 ±10% AC 200Vの場合： 平均電圧 +5/-10%	平均電圧の±15%以内に電源波形の歪みが抑えられ、3サイクルの内に変動が許容スパンを超えない事。
周波数変動	50/60 Hz +/-5%	
グラウンドニュートラル電圧	0.5 V rms	
スパイクノイズ（幅）	1nsec~5msec 以内	瞬停と認識できない範囲
スパイクノイズ（大きさ）	平均電圧±50%	200Vの場合はインパルスで100V以内 100Vの場合はインパルスで50V以内

システムに応じた電源容量およびコンセントをご準備願います。分析機器本体とコンピュータ周辺機器の電源は別系統でご準備願います。また、緊急時にシステムへの供給電源をOFFにできる電源配線にすることを推奨いたします。

5-2 機器の必要電源について

表-5-2 ご用意していただく電源および容量（標準システム）

	電源 (電圧/周波数)	電源容量	コンセント 数
分析装置（高速液体クロマトグラフ） ＜装置構成＞ ・ポンプ 1台 ・オンラインデガッサ 1台 ・オートサンブラ 1台 ・カラムコンパートメント 1台 ・検出器 1台	100 V 50/60 Hz	15 A ^{※1}	5~6 個 ^{※1}
・Q-TOF 1台	単相200 V 50/60 H	15 A	1 個
・N2発生装置 AT-30NP-CSH 1台 AT-10NP-CS 1台	三相200 V 50/60 H 100 V 50/60 Hz	15 A ^{※2} 15 A ^{※2}	1 個 1 個
ケミステーション本体	100 V 50/60 Hz	15 A	3 個
ネットワーク関連その他			1~3 個

※1：こちらは一例です。コンセントの数は機種構成により異なります。

※2：単独電源で準備できない場合には、別途 20A または 15A の単独電源をご準備下さい。

5-3 機器の接続について

テーブルタップを使用して接続する場合にはテーブルタップの容量（1500VA等）を確認の上各モジュールの消費電力の合計が許容電力を超えないように接続して下さい。

許容できる容量以上で接続した場合には、テーブルタップやケーブルが加熱され事故の原因になります。機器を追加する場合も消費電力を確認の上接続して下さい。

5-4 質量分析機器 (Q-TOF)

接地2P/250V 20A規格の引掛型コンセント (JIS C8303-1993) と電源ブレーカをご用意しています (ホット、ニュートラル、アースを配線, 図-5-1 参照)。

推奨コンセントを表5-3に示します。

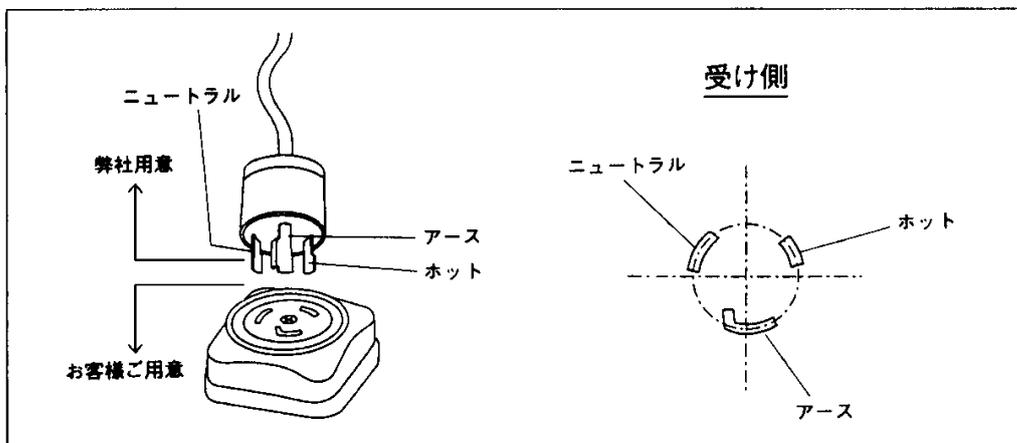


図-5-1 Q-TOF用電源

表-5-3 推奨コンセント

松下電工 (株) 製 250V 20A [JIS C8303-1993]相当	露出型	WK2520B
	埋込型	WF2520B

注意 1

電源ケーブルは2mです。機器まで2m以内の位置に電源コンセントの設置をお願いいたします。

注意 2

第3種アース (接地抵抗100Ω以下) を満足するもので、機器側で単独アースできるような配線工事をしてください。
また、電源ブレーカは、ON/OFFいずれの状態でも接地されるような配線工事をしてください。

表-5-4 Q-TOFの電源仕様

機器	型名	仕様	
		消費電力 (最大)	電源 (電圧/周波数)
Q-TOF	G6538/6540A	2850 VA	200-210 V +5/-10% 50/60 Hz ± 5%

5-5 液体クロマトグラフ (LC) , ワークステーション (WS)

使用する各電源は、第3種アース (接地抵抗100Ω以下) を満足するもので、全ての機器が共通のアースに接続される配線工事をしてください。 またアースは元電源がON/OFFいずれの状態でも接地されるように配線工事をお願いします。そうでない場合は感電、誤動作、機器の破損もしくは火災の危険があります。工事に際しては、各機器付属の電源ケーブルはいずれも2mですので機器まで余裕を持って配線できる位置 (各機器より2m以内) に電源コンセントの設置をお願いいたします。

お客様で、アース付きの電源コンセント (図-5-2) の準備と、電源コンセントまでの配線工事をお願いします。標準的なシステムについて、ご用意していただく電源および容量を表-5-5、表-5-6 に示します。コンセントの必要数は、各機器について1個です。 ただし、クォータナリポンプおよび冷却機能付オートサンプラは、コンセントが2個必要となります。

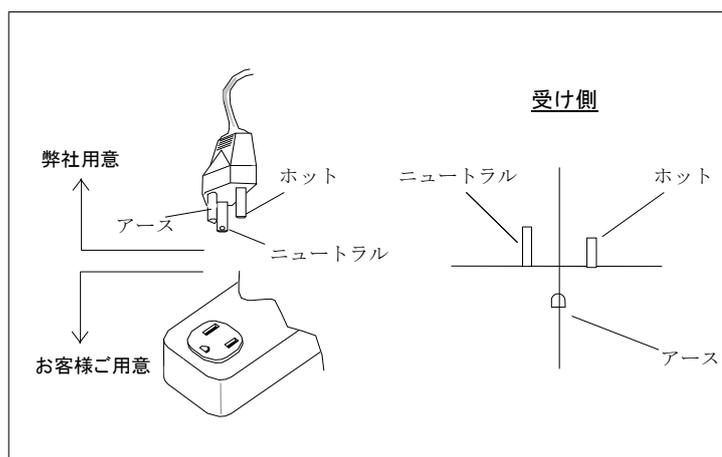


図-5-2 100V 電源コンセント (アース付き)

(1) PC本体及び周辺機器

表-5-5 各機器の電源仕様：ワークステーション本体^{※1}

機器	型名	仕様	
		消費電力 (最大 ^{※2})	電源 (電圧/周波数)
コンピュータ	dc7900	200 VA	100-127 V +/-10% 50/60 Hz +/-2Hz
ネットワークハブ	J4097C	40VA	100V +/-10% 50/60 Hz +/-2Hz
モニタ	FL472AA	110 VA	90-264 V 47-63 Hz
プリンタ	HP Laserjet P3005d	1000 VA	100-127 V +/-10% 50/60 Hz +/-2Hz

※1：ワークステーション本体の構成機器は、変更されることがあります。

※2：プリンターの動作時平均となります。

(2) 分析機器（高速液体クロマトグラフ）

詳細はAgilent 1200 シリーズ液体クロマトグラフ 据付前要領書をご参照ください。

6. 試薬について

6-1 試薬

据付作業に必要な試薬類は**事前準備チェックリスト(表-6:21ページ)**をご参照ください。
試薬のメーカーは特に指定いたしません。必ず液体クロマトグラフグレードをご準備願います。

試薬類は、使用時には必ず脱気してお使いください。

注 意

試薬類が準備されていないと、据付作業が実施不可能となります。必ずご準備願います。

6-2 純水

試薬の調製に用いる水は、ミリポア社製超純水製造機器Milli-Qと同等品で製造される超純水（導電率18MΩ以上）をご準備願います。

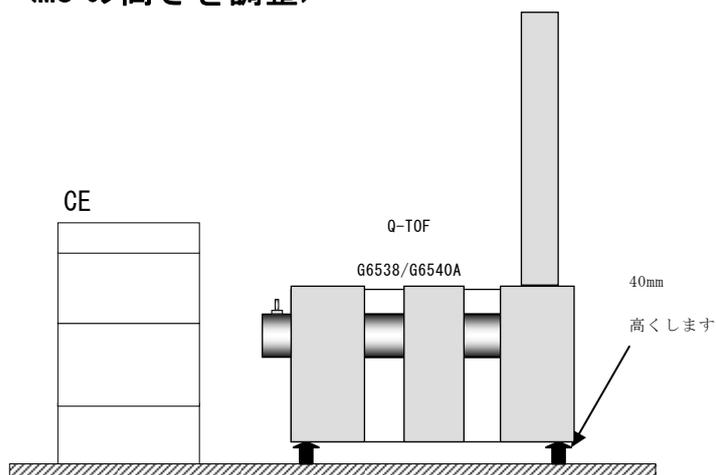
純水も試薬同様、据付時に脱気をお願いいたします。

7. CE-MS設置時の注意点

7-1 CE G7100Aとの組み合わせ

CE-MSとしてお使いになる場合、MS本体とCEの設置高さを調整しなければいけません。下記のようにCEを固定し、MSの設置位置を高くする場合、40mm上げて設置します。

<MSの高さを調整>



その他、CE G7100Aの設置に関しては、G7100A 据付前要領書を参照ください。

送付先 To: _____

____月 ____日

お客様名 _____

TEL _____

G6538/G6540SeriesQ-TOFシステム据付作業 事前準備チェックリスト

表-6 事前準備チェックリスト

項目	チェック内容		確認
設置環境	環境	温度： 15～32℃ 湿度： 40～80% 室温安定： 室温安定 < 3℃/時間 以内であるか？ 機器に直射日光、空調施設の風が直接あたらないか？ 腐蝕性雰囲気、ほこりの多い場所でないか？ 振動のないところであるか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	スペース	LC/MS Q-TOF システム設置台： 幅： _____cm x 奥行： _____cm x 高さ： _____cm 設置台の耐荷重： _____Kg Q-TOF ワークステーション用の机（PCラック使用時）： 幅： _____cm x 奥行： _____cm x 高さ： _____cm 設置台の耐荷重： _____Kg 机の後ろにスペースが確保できるか？ 幅： _____cm Q-TOF本体の前後・左右に30cm以上のスペースがあるか？ 冷却機能付オートサブラの左右に25cm以上のスペースがあるか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	排気	Q-TOF 排気容量：20L/min以上 排気チューブの接続距離は 2.5m以内か？ 2.5m以上の場合 排気チューブ手配は？ <input type="checkbox"/> 営業手配 長さ： _____cm 排気チューブの接続形式： <input type="checkbox"/> 排気ダクト接続 <input type="checkbox"/> ドラフト排気 <input type="checkbox"/> その他 () 外径 3/4インチ OR 1/2インチ の接続口があるか？	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

改訂履歴

版	主な変更	改訂日
第1版	初版。	

本仕様書は予告なく変更することがございますので、ご依頼の際にはご確認ください。

